

平成 22 年度「奈良県立民俗博物館運営協議会」の開催結果について

民俗博物館の民俗資料及び民家の収集・展示・保存等を有機的に行うため、運営協議会を下記のとおり開催しましたので、お知らせします。

- 1 日 時 2011 年 3 月 18 日 (金) 午後 2 時～4 時
- 2 場 所 奈良県立民俗博物館会議室
- 3 出席委員
櫻井 敏雄(副会長) 大谷大学客員教授
稲城 信子 薬師寺宝物管理研究所研究員
上井 輝代 奈良県文化財保護審議会委員
齊藤 純 天理大学文学部教授
伊達 仁美 京都造形芸術大学芸術学部教授
森 隆男 関西大学文学部教授

4 会議公開 傍聴者なし

5 議事概要

議題

- ・事業報告、事業計画について
- ・「(仮)奈良県の染織用具及び関連資料」コレクション化事業について
- ・有形民俗文化財デジタルデータベース作成事業(緊急雇用)について
- ・今後の民俗博物館と大和民俗公園のあり方等について
- ・その他

〈主な意見等〉

- ・民俗学は現代社会と関わるのが大事であり、子どもが減少する中で子育てが注目されている時の企画展「子育ての民俗」はタイムリーな企画と評価するし、同展「モノまんだら」も大変よいので今後もモノの効果的な使い方をし、展示を継続すればいい。
- ・民家を活用し成功した「カマドの火を眺めながら聞く大和の昔話」については、奈良教育大学竹原先生などともタイアップし、語り手を育てる場となればいい。
- ・コレクション化の染色用具の特色は奈良晒であるが、民博収蔵のものと月ヶ瀬のものも含めてボリュームを増す方法もあるのではないかな。
- ・民家については、見るだけという凍結型ではなく、食べることや郡山市の伝統野菜の朝市に取り組むなど、参加できるようにすれば人も来る。
- ・地元郡山市民との交流を深めれば、自分たちで博物館を守っているという意識付けにつながるのではないかな。
- ・サポーターや友の会をつくり、民具のクリーニングや雛祭りの飾り付けの一部を協力しませんかと呼びかけるなどしてはどうか。
- ・解説ボランティアづくりは、最初は大変であるが、うまくいけば安心して任せられるので、まずは小学生用の解説ボランティアについて検討してはどうか。
- ・展示施設のない市町村とタイアップし、重点的に活動してはどうか。
- ・博物館の経営・研究・資料の活用等について、全て同時に均等割でなく、順に重点的に年次計画を立て実施してはどうか。